

The 8th Basho-an International English Haiku Competition  
第8回 芭蕉庵国際英語俳句大会

受賞結果 result

世界38の国や地域から、1,307句の応募をいただきました。

We received 1,307 haiku(phrases) from 38 countries and regions.

<b>Australia</b>	オーストラリア	<b>Italy</b>	イタリア
<b>Austria</b>	オーストリア	<b>Japan</b>	日本
<b>Belgium</b>	ベルギー	<b>Kazakhstan</b>	カザフスタン
<b>Bulgaria</b>	ブルガリア	<b>Netherlands</b>	オランダ
<b>Canada</b>	カナダ	<b>New Zealand</b>	ニュージーランド
<b>China</b>	中国	<b>Pakistan</b>	パキスタン
<b>Croatia</b>	クロアチア	<b>Philippines</b>	フィリピン
<b>Czechia</b>	チェコ	<b>Poland</b>	ポーランド
<b>France</b>	フランス	<b>Portugal</b>	ポルトガル
<b>Germany</b>	ドイツ	<b>Romania</b>	ルーマニア
<b>Ghana</b>	ガーナ	<b>Russia</b>	ロシア
<b>Greece</b>	ギリシャ	<b>Singapore</b>	シンガポール
<b>Hong Kong</b>	香港	<b>Spain</b>	スペイン
<b>Hungary</b>	ハンガリー	<b>Sweden</b>	スウェーデン
<b>India</b>	インド	<b>Switzerland</b>	スイス
<b>Indonesia</b>	インドネシア	<b>UAE</b>	アラブ首長
<b>Iran</b>	イラン	<b>UK</b>	イギリス
<b>Ireland</b>	アイルランド	<b>USA</b>	アメリカ
<b>Israel</b>	イスラエル	<b>Wales</b>	ウェールズ

たくさんのご応募、ありがとうございました。

Thank you for your applications.

*wounded heart*

打ちひしがれた心

*a silent wardrobe—*

静かな衣装戸棚——

*the pomegranate*

ザクロの実！

Antonella Del Re

Italy

## 受賞者からのメッセージ Winning message

私は故郷、イタリアのプーリア州、サンミケーレ・ディ・バリで、夢をみさせてくれる俳句を作ることを楽しんでいます。私にこの賞を下さった審査員に心からの感謝を伝えたい。私の俳句に注目して下さいたことを光栄に思います。



## 長谷川權先生 講評

何事かあって、今は開かれなくなった衣装戸棚。ここに添えるのはザクロの実。果実に詰まった真紅の粒はひっそりと傷ついた心のもでもあり、塗料の剥げかかった戸棚に並ぶ衣装のもでもあるのだが、衣装戸棚とザクロの実の関係を決定的に解き明かすものにはここにはない。読者はこの2つの間の空白を自由に想像すればいい。

その関係を作者があえて言葉で（！）説明しないのは、言葉による説明にとうの昔に幻滅しているからだ。だからこそ、この2つを何も言わずに並べて置いた。

これが俳句の「切れ」の究極の形であることを作者は十分わかっている。日本の俳人も生涯それに気づかない人がたくさんいるというのに。

日本からの応募作品は（日本人とは限らないが、多くは日本人の作品だろう）、応募数は多いが、英語で俳句を作る切実な動機が感じられない。日本語で発想した俳句を英語にして出している俳句が多い。これは日本の社会と文化の貧しさの表れでもあるのだろうが、無邪気な徒勞である。

## 入選 Ten Winners

*last day of summer...* 夏が終わる日…  
*the sky stretches with leaves* 木々の繁茂する空が広がる  
*over the loft of dreams* 夢たちの眠る屋根裏の上に  
 Voicu Steliana Cristina Romania

*etching silence* 静寂を刻みながら——  
*over the frozen pond* 池の氷を  
*the bare feet of rats* 裸足のネズミが走る  
 Ali Farah UK

*laughing children* 子どもたちが笑っている  
*among snowmen—* 雪だるまの間で——  
*a bride in white* 白い世界の花嫁！  
 Antonella Del Re Italy

*a child's wintersong* 子どもの歌う冬の歌  
*sizzles through the snow* 雪の中をやってくる、楽しげに——  
*parcel upon parcel* 小包の上に小包！  
 Summers Alan UK

*drought* 旱魃——  
*a woman leaves behind* 一人の女が残してゆく  
*green apple scent* 青い林檎の香り  
 Cezar Ciobica junior Romania

*empty space* むなしい空間  
*between the sleeping refugees?* 難民たちが眠る——  
*canned sardines* 缶詰のオイル・サーディン！  
 Ibrahim Nureni U S A

*Oh nightingales* おう、ナイチンゲールよ  
*with your song* 君たちの歌を聞きながら  
*still sleeping dawn* 夜明けはまだ眠っている  
 Ravisankar India

*olive trees in bloom* 花咲くオリーブの木々が  
*extinguished constellations—* 星座を隠してしまった——  
*an overcrowded bus* 超満員のバス！  
 Diomedede Sante Italy

*monsoon...* 雨季のモンスーン…  
*crying out loud* けたたましく鳴く  
*peacock blue* 孔雀の深いブルー  
 Monica Kakkar India

*Red flags* 赤い旗がはためく  
*by the sea. The light flight* 海のそばで。かるやかに飛ぶ  
*of a dove* 一羽のハトよ。  
 Friebe Volker Germany

*bedtime story*

寝る前のお話

*in the tree by the window*

窓のそばの木

*a still owl*

じっと動かない梟

Cezar Ciobica senior

Romania

## 受賞者からのメッセージ Winning message

この賞をくださった審査員の方々には心より感謝を申し上げます。この句は息子の一人が赤ちゃんだった頃の私の経験に結びついています。息子を寝かしつけるために、子守唄のCDをかけ、息子を抱いて優しく揺らしてあげたものでした。カーテンのない窓のおかげで、私たちは一緒に素晴らしい景色をながめたものです。天の川、満ち欠ける月、壁に映る影絵、そして木の枝にとまった鳩や雀、四十雀、梟といった鳥たち。この俳句は、私にとって、父と子の関係が始まったばかりの、二度と戻らない大切なひとときを永遠に思い出させてくれるお守りのようなものです。



## 藤田直子先生 講評

子ども部屋で、子が寝つくまで、父は毎夜、物語を聞かせている。その時間になると、窓のそばの木に、森から梟が来てとまる。「森の賢者」と言われ、教育機関のシンボルにもなる梟。物語に耳を傾けながら、子の成長を守っているのだろう。地球の生き物同士が共生する理想の姿が童話の一場面のように美しく描かれている。

## 入選 Ten Winners

*the wind whispers* 葉擦れの中に  
*in the rustle of leaves* かすかな風の音  
*a brief story* 短編小説のように  
Kapetanović Amir Croatia

*Christmas ceasefire* クリスマスの停戦  
*snow bandages the wounds of a burned village* 雪が焼け野原の村を包帯のように覆う  
Kovacic Nina Croatia

*Crossing the mid-sea* 大海原を渡りながら記憶が蘇る  
*memory struck? forgot to pour water on the pot plant* 鉢植えに水をやるのを忘れた  
Karuna Rajakumaran India

*a fallen twig* 落ちた小枝が  
*back on the tree* 木に戻ってる  
*oh, a nest* あっ、鳥の巣  
Ravisankar India

*two white airplanes chalk* あざやかな秋の青空に  
*the sky's startling autumn blue* 白いチョークで描いた二本の飛行機雲  
*a child god's scribbles* 子どもの神さまの落書き  
Metcalf Samuel Benedict Japan

*Reaching the book's end* 本の終わりまで来て特に結末もない  
*writing of no consequence* 死とはこのようなものか?  
*is death like this?*  
Varun U. Shetty USA

*boundless blue -* どこまでも続く青  
*for a moment a dolphin leaps into the sky* イルカが空に向かって飛び跳ねる瞬間のために  
Iulian Ciupitu Romania

*icon on the wall* 壁の聖像  
*even in sleep we pray for the warriors* 眠っている間も戦士のために祈る  
Boianova Stoianka Bulgaria

*in a grey dawn sky* 灰色の夜明けの空  
*the sun kisses a seagull* 太陽が鷗にキスをする  
*luminous gold flash* 金色に輝く瞬間  
Sheehan Pip New Zealand

*child's cry* 子供の泣き声  
*same language across borders* 国境の両側で同じ言葉  
Miera Rao USA



<i>snow-covered roof</i>	屋根の雪
<i>a pregnant woman holds her belly</i>	妊婦が腹を抱え守る

Daniela Misso

Italy

## 受賞者からのメッセージ Winning message

栄えある芭蕉庵の賞を受賞し、たいへん光栄です。芭蕉庵と選者のリンズィー氏に、この賞を下されたことへの心からの感謝を申し上げます。今回の受賞は、私に幸せをもたらし、作句を続ける励みとなります。そして、困難な時期にも私の強さや勇気を取り戻すことができました。



## リンズィー先生 講評

冬は春の訪れ、すなわち新しい命の予兆を秘めている。この句の具体的な映像は文化を超越し、あらゆる読者に容易に理解される。この俳句は、古典的な対比を通じて深遠な人間のつながりの瞬間を見事に捉えている。雪に覆われた屋根の冷たく静止したイメージは、腹を抱える妊婦の温かく生きた存在と対照をなす。家を守る屋根は、体内の新しい命を守る母親の保護的な仕草を映し出し、保護、内包、そして脆弱性を語る意味の層を創り出している。雪に包まれた情景はあまりにも静かで、赤ちゃんの心音が聞こえ、妊婦が腹を抱きながら確かに感じているであろう胎動さえも感じ取れるかのようだ。

## 入選 Ten Winners

<i>the vendor street</i>	露天商の	<i>end of summer</i>	夏の果て
<i>selling the last boomerang</i>	最後のブーメラン	<i>fewer butterflies</i>	蝶少なくなり
<i>flock of cranes</i>	鶴渡る	<i>visiting the nursing home</i>	介護施設
Eduard TARA	Romania	Capotă Daniela Lăcrămioara	Romania
<i>winter doldrums -</i>	冬の憂鬱 -	<i>spring rain</i>	春の雨
<i>I count the carriages</i>	長い列車の	<i>she arranges my books</i>	君は私の本を色ごとに並べる
<i>on a long train</i>	車輛を数える	<i>by colour</i>	
Curran Anne	New Zealand	Ali Farah	U K
<i>paddle steamer</i>	外輪船	<i>river flowing</i>	川が
<i>the toot</i>	水鳥の一声	<i>around the bend</i>	鷺の首の曲がりに沿って流れる
<i>of a water bird</i>		<i>of the heron's neck</i>	
Piko Gregory	Australia	Huddlestone Edward	USA
<i>a white chip</i>	私のインディゴ色のカップに	<i>tai-chi class</i>	太極拳の講座
<i>in my indigo cup</i>	白く欠けた傷	<i>grandpa learns to push</i>	祖父は秋の風を押すことを
<i>pre-dawn moon</i>	夜明け前の月	<i>the autumn wind</i>	習っている
Bennett Brad	USA	Carlos Archie G.	USA
<i>lying in bed</i>	思索にふけりながら	<i>melting icicles</i>	解けてゆく氷柱
<i>with my thoughts . . .</i>	ベッドに横になる . . .	<i>the moon slips</i>	月が次の雫へ滑り込む
<i>bumblebees</i>	蜜蜂	<i>into the next drip</i>	
Louis Talbot	U K	Hanson Simon	Australia